

平成21年度 特別展

「親鸞 ー茨城滞在20年の軌跡ー」を開催しました

鎌倉時代、浄土真宗を開いた親鸞は、90年の生涯のうち約20年を茨城で過ごしました。親鸞の生涯と思想、親鸞を支えた家族と社会、そして親鸞が京都に赴いた後も師の教えを受け継いだ弟子（同朋）たちの動向という3つの観点から、茨城における親鸞の軌跡をたどり、滞在20年の意義を探りました。

また、江戸時代のはじめまで常総市にあった親鸞直筆の「坂東本教行信証（ばんどうぼんきょうぎょうしんしょう）」（国宝）が400年ぶりに茨城に里帰りしました。さらに、日本一美しいと言われる国の重要文化財「木造彩色聖徳太子立像（もくぞうさいしきしょうとくたいしりつぞう）」など浄土真宗の至宝も公開しました。

群馬県から来館した方は、「親鸞さんが好きで、いろいろな場所を巡っています。この展示を楽しみにきました」と言っていました。また、歴史が好きで来館したという小学6年生の女子児童は、熱心にメモを取りながら見学していました。

1 開催の趣旨

鎌倉時代は鎌倉仏教とよばれる、個人の救済を説く新しい仏教が起った時代であり、その祖師のひとりが浄土真宗を開いた親鸞です。親鸞は90年の生涯のうち、壮年期の約20年間を茨城ですごし、ここを拠点に布教を進めました。それは茨城の自然と風土のなかに身を置き、そこに生きる人びと語り合い、親交を深める日々でもありました。そうした日々の積み重ねは、親鸞自身の思想の形成にも少なからぬ影響を与えていると思われます。実際、親鸞の思想の具現であり、浄土真宗の根本聖典ともいえる『教行信証』の草稿を茨城で著しています。

本展では、親鸞の生涯と思想、親鸞を支えた家族と社会、そして親鸞が京都に赴いた後も、師の教えを受け継いだ弟子（同朋）たちの動向という、3つの視点から茨城における親鸞の軌跡を辿ることで、滞在20年の意義を探るものです。

2 主 催

茨城県立歴史館

3 協 賛

株式会社 常陽銀行

茨城県信用組合

4 後 援

真宗大谷派、浄土真宗本願寺派、真宗高田派、原始真宗大本山願入寺、

浄土真宗別格本山西念寺、日本放送協会水戸放送局、東日本旅客鉄道株式会社水戸支社、

水戸市、社団法人水戸観光協会、社団法人茨城県観光物産協会、

大好き いばらき 県民会議

5 会 期

平成22年2月6日(土)～3月22日(月)

開催日数 43日 休館日：2月8日(月)、2月15日(月)

6	主な出陳資料及び借用先	出陳予定資料点数	約150点
	国宝 教行信証(坂東本)	京都市・真宗大谷派(東本願寺)	
	重文 善性本親鸞聖人消息集	三重県・専修寺	
	重文 拾遺古徳伝絵	銚田市・無量寿寺	
	重文 聖徳太子絵伝	那珂市・上宮寺	
	恵信尼公画像(初公開)	笠間市・西念寺	
	茨城県指定文化財 親鸞聖人画像	大洗町・願入寺	

7 会期中の関連行事

(1) 講演会「茨城の親鸞」

2月28日(日) 午後1時30分から 2時間程度

講師 今井 雅晴氏(筑波大学名誉教授・真宗文化センター所長)

(2) 親鸞歴史講座

2月13日(土)「親鸞の生涯～歴史と伝承のなかで～」

2月20日(土)「茨城の門徒1～県北・県央・鹿行地域～」

3月6日(土)「茨城の門徒2～県南・県西地域～」

3月13日(土)「親鸞以後の茨城の浄土真宗」

担当 飛田 英世(当館学芸課首席研究員)

※各日とも、午後1時30分から 1時間程度

(3) 展示解説

2月14日(日)

3月7日(日)

3月14日(日)

担当 飛田 英世(当館学芸課首席研究員)

※各日のとも、午前11時・午後2時の2回 30分程度実施

8 内容

プロローグ

親鸞と親鸞をめぐる家族と茨城の社会

(1) 親鸞の生涯と思想

生涯と思想

師, 法然

阿弥陀と太子

(2) 親鸞と社会・家族

親鸞, 茨城に来る一大高山・下妻時代一

親鸞の生活基盤一稲田郷と小鶴荘一

親鸞と子, 孫

(3) 二十四輩と門徒

面授の弟子, 二十四輩

親鸞と修験

武蔵と下野境の門徒
奥郡の門徒
鹿島の門徒
霞ヶ浦の門徒
辛島の門徒
横曽根の門徒



▲ テープカットの様子



▲ 展覧会の様子(木造彩色聖徳太子立像)